

もしこの世に自分一人しか いなくなったら（ぼっち5）

何が安全か否かの（根本的・絶対的）基準は誰が規定したのか、その根拠は何か。

自然に浴びる放射線。それは自然であり、それによつての身体的・生態的異常（病気）および生態的維持の継続不可能（死）に関する責任の所在は、自然および本人に由来するものであり、したがつて、本人以外の他者にその責任を遡求できない。

人為的に浴びる放射線。それが直接的・間接的の何れかには関係なく、その身体的・生態的な異常（病気）および、生態的維持の継続不可能（死）に関する責任の所在はそれを放出する者（法人・個人両者）および、放出に関わる施設の設立を企画・運営・実施した者、ならびにそれを許認可した者にある。放出しない義務は正当に履行され、確實・厳正な立場の人・法人により、かつ正当に担保され得るのか。また、人為的に放出された放射能について。1) その放射能から直接被爆する場合。2) 飲食物や呼吸から体内へ取り込んだ放射能における一時的または蓄積による被爆の場合。3) その放射能からの放射線による食物の遺伝子破壊による影響。これらの責任の数値化・可視化は如何に。

自然に由来する放射線、および人為的な放射線両方が存在する場合は、どうなるのであろうか。後者に起因する病気および死に対する責任は、誰にどれだけ負わされるのか。また、その割合が正当かつ合理的に明示され得るのであろうか。

その責任を追及したいのであるが、訴える所はあるが、受付けてもらえる人はいないし審理する人もいない。結果的に放出した個人・法人はいたのであろうが、誰にもその責任を遡求することはできない。全てが自分自身にこの状況に対する行動のあり方が問われている。つまり、この状況がヒドイとか酷とか言う前に現状は全て自己責任となる。もはやそれらの放射線（能）が何（由来）色と判定することは、全く無意味となつてしまった。

当然ではあるが、医療目的の放射線はもう浴びる機会はない。その範疇外となる。

果たして、今被爆している影響はどうなのか。取り残された、もしくは生き延びた1人の人間にとって、無意味と片付けられては困るのであるが、何がどうあつても、どうしようもない現実が突きつけられている。安全なのか、そうではないのか。

自分が生きるだけの回避。意味があるのだろうか。近くの発生減を回避するために、他の発生源に近づき、暴露する可能性はかなり大きい。「生きる」為はその危険を顧みずに突き進むだけの「生き抜く」為に有益な何かが果たしてあるのだろうか。

仮に何らかの病気になつたとしても初期の段階で見つける術は無いし、判断できない。相当悪くなつて、自覚症状が出て、自分ではもうどうしようもない。

鮮度の良い食料。米作り、野菜作りから始めてみようと思つて行動を開始した。